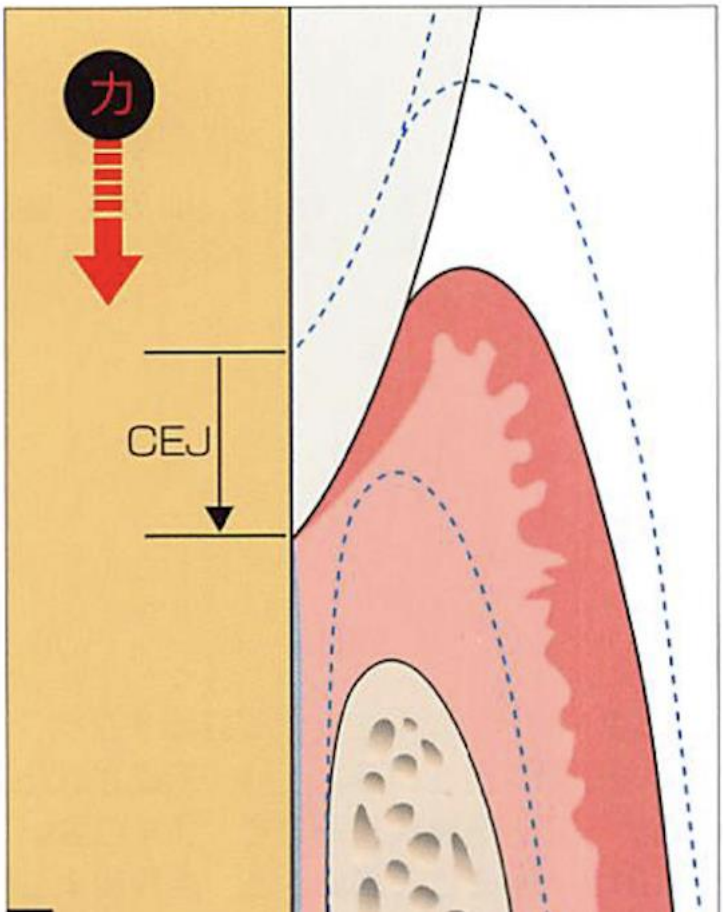
臨床Q&A　NO．２８２

Q：垂直性骨欠損には力が関与しているのでしょうか？

A：垂直性骨欠損は咬合圧などの外傷性力によって生じるのではありません。
「咬合性外傷によって歯周組織が破壊されることはない」と Lindhe の著書にも明記されています。

矯正力と歯周組織との関係について、現在は、①矯正的歯の移動によって、健康な歯周組織に炎症を起こすことはない，②歯の移動によって、健康な歯の結合組織性付着が喪失されることはない、③歯周炎罹患菌でもプラークコントロールされ、炎症が終息していれば、結合組織性付着が喪失されることはない、④プラークが残存していれば、付着の喪失が起こることがある、というのが国際的に一致した見解です。
圧下・挺出の実験的研究によっても、力が骨欠損を生じることはない。と報告されています。つまり，垂直的な圧下の力を加えても付着上皮の先端の付着位置はセメント・エナメル境（CEJ）に位置しており、CEJ から歯肉頂までの距離も、CEJ から歯槽骨頂での距離も、実験前とほとんど変わりませんでした。
また、挺出力を加えても、歯と接着する付着上皮の先端の位置は変わらず、歯周ポケットも形成されませんでした。これらの実験では矯正力を用いましたが、咬合圧などが加わった場合も同じと考えられます。垂直性骨欠損には力は関与していない、といえます。

参考文献：
下野先生に聞いてみた１　下野正基 著
（クインテッセンス出版）より引用



歯周組織に垂直的な力（圧下）が加わった場合の模式図。プラークコントロールされていれば、圧下の力が加わっても、歯と接着する付着上皮の先端の位置は、正常と変わらず、セメント・エナメル境にある。歯周ポケットも形成されず、骨吸収も起こらない。